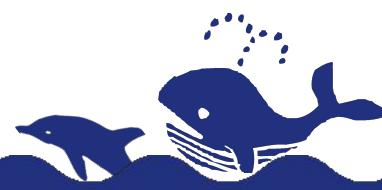


海と日本プロジェクト inくまもと

一般社団法人くまもと海のミライ



舞台は熊本！釣りマンガ連携で海洋ごみゼロへ。

熊本県芦北町は、釣りマンガ「放課後ていぼう日誌」のモデルとなり、ファンや釣り人によるごみのポイ捨て、漂着ごみをはじめとした海洋ごみ問題が課題となっている。芦北町や芦北高校と連携した海ごみ削減の取り組みを行うことで、CFBの認知度やごみ削減効果の最大化を図った。人気漫画とコラボすることで釣り人にマナー向上を呼びかけ、ごみを削減するモデルケースを目指した。清掃活動がごみ削減のためではなく、地域活性化にも寄与するというコンセプトで次年度も事業を展開し、「芦北モデル」の確立を目指す。

2023年度 実施状況について

その他事業: スポ GOMIなど

芦北モデル



概要 芦北町がモデルとなった釣り漫画「放課後ていぼう日誌」と連携し、釣り人や観光客への海洋ごみ削減を呼びかけ。ホットスポット調査や拾い箱・のぼりの設置、ごみ拾い袋の配布等を実施した。

目的 釣り客の増加により、ていぼうやその周辺にごみが散乱している現状を解決するために、海洋ごみに対する意識の向上やアクションを促す目的で実施。

アピールポイント 「放課後ていぼう日誌」作者の全面協力のもと、オリジナルのイラストを制作し、より親和性の高い取組に。芦北高校生をはじめ、地域の協力も得られている。

効果 指標とした数字: 提防付近の散乱ごみ状況、拾い箱のごみ回収量
検証方法: 拾い箱設置前にホットスポット調査を実施。
検証期間終了後に毎回周辺のごみ調査を実施し、前後で比較

見られた成果: 拾ったごみを拾い箱に入ってくれるが、それでも周辺はごみが散乱している状況。新規のポイ捨てごみは減った。

河川ごみ発生源調査



概要 ドローン・車載カメラ・目視により緑川の河川ごみの状況を調査

目的 河川ごみ状況調査を実施し、地図上に落とし込み、ホットスポットデータとして共有することで、以降のごみ拾いイベントや整備、管理などを効率的に実施出来るようにする

アピールポイント 昨年度より継続調査しているので、トライアンドエラーでより効果的な検証に。今回はより都市部での実施となる。

効果 検証方法: ドローン・車載カメラ・徒歩目視による細かな調査
見られた成果:

1月実施予定

高森新酒まつり 山エリアから海ごみゼロ大作戦



概要 高森町で開催される新酒祭りのメインイベント日に、県内外の参加者と実行委員会でごみ拾いを実施。

目的 海洋ごみの約8割が陸から河川への流出により発生している。山エリアでごみ拾いを実施することで参加者への意識の醸成を図る。

アピールポイント 海洋ごみ対策を推進するためには、沿岸部だけでなく上流域の意識醸成が必要不可欠であり、山エリアでの清掃活動や海岸漂着物の問題への理解の促進が重要である。高森町は天草市と横軸連携を結んでおり、山エリアでながら海エリアとの交流もあり、自分ごととして取り入れやすい。一大イベントである新酒まつりは集客力もありRIR向きである。

効果 指標とする数字: ごみの量、検証方法: 参加者の声
見られた成果:

3月10日実施予定

海ごみゼロウィーク



ごみ拾い参加人数 14,843人

箇所数

37箇所

アピールポイント 春・秋の海ごみゼロウィーク期間を中心に一般参加者を集めたゴミ拾いイベントを実施。自治体やスポーツチーム、大規模イベントと連携し、浸透中。

メディア露出



メディア露出本数 番組 6本 720秒・告知 15秒CM 3種類 350本 5,250秒

アピールポイント 実施モデル、スポGOMIワールドカップ・甲子園などを放送。
一般参加者募集CMも多く放送し、視聴者のCFB認知度を高めた。



2023年度の課題とこれからの展望

熊本県では水害によって土砂や流木・災害ごみが多く海に流入しているなどの課題がある。この1年の活動を通して、置き去りとなっている場所や、災害ごみを置いていた場所というイメージが定着した場所があり、熊本県民の海ごみ問題への認知・意識には課題が残っていることが分かった。海洋ごみに対して、沿岸地域で暮らす人々だけでなく、県内全域、ひいては熊本を訪れた観光客にも関心を持ってもらえるよう、自治体や地元企業、県内イベントと連携して来年度はさらに多角的に進めていきたい。